研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 花の構造色を呈する微細構造 -フォトンクス農業実現のための基盤構築-

2. 個人研究者名

越水 静 (情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 助教)

3. 事後評価結果

本 ACT-X 研究における独創的な成果は、ギンセンカの実験系の独自構築から始まり、RNA-seq を用いたクチン合成系の遺伝子の発見に至った点である。この取り組みは、生物学研究における新たな地平を開くものであり、その技術的な独創性と科学的な貢献は非常に高い評価に値する。さらに、ハイスループットな構造色識別の方法論の確立は、この分野における重要な進歩であり、これらの成果が着実に論文化されたことは特筆すべき成果と言える。加えて、共同研究においても、分野外の研究者と適切に連携を取り、新しい計測技術を研究目的にマッチさせることで、研究の幅を広げている。例えば、領域内共同研究による弾性率の測定と言った展開は、重要な成果であると言える。研究の多様性とその応用の可能性を広げることに貢献しており、加速フェーズでのさらなる発展が大いに期待される。